

7月臨時教育委員会議事録

- 1 開催日 令和元年7月17日(水)
- 2 会場 大井川庁舎 3階 大会議室
- 3 開会 午後1時30分
- 4 出席委員 佐藤美代志教育長
大石智之委員(職務代理者)
北川利男委員
奥川重子委員
山竹葉子委員
- 5 会議出席者 岡村敏典事務局長
近藤和人学校教育課長
中野直幸主席指導主事
朝倉満学校教育担当係長

書記 日下部充教育総務課総務担当主幹
- 6 議事 別紙のとおり

佐藤教育長	<p>【午後 1 時 30 分開会】</p> <p>それでは、只今から 7 月の臨時教育委員会を開会いたします。本日の議事録署名人は、大石委員と山竹委員にお願いします。なお、本日の臨時教育委員会には傍聴希望がありましたので、これを認めます。それでは、早速議事に移らせていただきます。議第 7 号、令和 2 年度使用の中学校用図書の採択について、お願いします。教科書採択という公正さが求められる議案となりますので、慎重な御協議をお願いします。それでは、事務局から採択案に至る経緯を含めて、内容の説明をお願いします。</p>
近藤学校教育課長	<p>議案の 1 ページを御覧ください。議第 7 号、令和 2 年度使用の中学校教科用図書の採択については、志太地区教科用図書採択連絡協議会から同意を求める教科書の採択案の建議がありましたので、御協議をお願いするものであります。説明に入る前に、教科書採択について説明をさせていただきます。通常、教科書採択は 4 年に 1 度の実施となるため、これまで使われていた教科書については、昨年度、小学校の採択を実施し、本年度は中学校の採択を実施することになります。しかし、学習指導要領そのものが変わり、新学習指導要領全面実施が、小学校は来年度令和 2 年度、中学校は再来年度令和 3 年度に行われることに伴い、これまでの教科書については、昨年度採択した小学校の教科書と、本年度採択する中学校の教科書は 1 年だけ使用することになります。昨年度、小学校の採択に際しては、1 年のみの使用ということで、それまで使用してきた教科書を引き続き使用していくということで、この場で同意していただきました。本日は、これまでの学習指導要領に基づいて、来年度 1 年のみ使用する中学校の教科書と、来年度から 4 年間使用する新学習指導要領に基づいてつくられた小学校の教科書の採択について御協議いただきます。それでは、中学校における採択についてご説明させていただきます。今回の教科書採択については、平成 30 年度検定において、新たな図書の申請がありませんでした。したがって、県の令和 2 年度用教科用図書の採択指導の基本方針にしたがい、基本的には平成 26 年度検定合格図書等の中から、採択替えを行うこととなります。そこで、採択替えを行うために、志太地区全中学校に、これまで使用してきた実績を踏まえた調査研究を実施しました。その結果、志太地区全 26 中学校から、9 教科 15 種目の教科書について、現在使用している検定教科書をそのままもう 1 年使用することに問題はないという報告を受けました。ついては、この報告を基に、令和 2 年度の志太地区で使用する中学校の教科書については、現在使用している教科書を引き続き使用していくという採択替え案を報告させていただきます。なお、具体的には議案の 3 ページにある教科書となります。私からの説明は以上です。</p>
佐藤教育長	事務局からの説明が終わりました。質疑がある方は、発言をお願いします。

奥川委員	<p>中学校は1年のみということで、ここで変えるということは生徒にとっても戸惑いも多いし、現場にとってもプラスがあってもマイナスが多くなることを考えると提案通りでいいと思います。</p>
佐藤教育長	<p>よろしいでしょうか。 他にないようでしたら、これで質疑を終了いたします。事務局より志太地区の採択案の説明をお願いします。</p>
近藤学校教育課長	<p>それでは、議案3ページ「令和2年度使用中学校教科用図書（志太地区採択案）」をご覧ください。 国語 三省堂、書写 教育出版、社会（地理的分野）教育出版、社会（歴史的分野）教育出版、社会（公民的分野）教育出版、地図 帝国書院、数学 学校図書、理科 大日本図書、音楽一般 教育芸術社、音楽器楽 教育芸術社、美術 日本文教出版、保健体育 東京書籍、技術 開隆堂、家庭 開隆堂、英語 学校図書、以上のようになっております。</p>
佐藤教育長	<p>それでは、議第7号について、お諮りします。「令和2年度使用の中学校教科用図書の採択については、志太地区教科用図書採択連絡協議会の採択案に同意する」として、御異議はございませんか。</p>
委員全員	<p>異議なし</p>
佐藤教育長	<p>同意することが決議されましたので、当委員会は志太地区教科用図書採択連絡協議会長へ同意書を提出することにいたします。事務局は、同意書を提出してください。 次に、議第8号、令和2～5年度使用の小学校教科用図書の採択について、事務局から採択案に至る経緯を含めて、内容の説明をお願いします。 協議する種目が13種類と大変多くありますので、3つに分けて進めさせていただきます。まず、国語、書写、社会、地図を説明していただき、質疑を行います。次に、算数、理科、生活、音楽、最後に図画工作、家庭、保健、英語、特別の教科道徳という順序で、説明と質疑をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
委員全員	<p>異議なし</p>
佐藤教育長	<p>それでは、「国語」、「書写」、「社会」、「地図」の4種目について、事務局から説明をお願いします。</p>

<p>近藤学校教育 課長</p>	<p>それでは、スクリーンを御覧いただきながら、話をさせていただきますので、移動させていただきます。</p> <p>議案の4ページを御覧ください。議第8号 令和2～5年度使用の小学校教科用図書の採択については、志太地区教科用図書採択連絡協議会から同意を求める教科書の採択案の建議がありましたので、御協議をお願いするものであります。それでは、採択案を説明させていただきます。「志太地区教科用図書採択連絡協議会」は、教科用図書の採択について必要な調査を行うため、「志太地区教科書研究委員会」を設置しており、焼津市、藤枝市、島田市の3地区から総勢41名の教員が研究委員として委嘱を受けました。研究委員は、4日間終日という膨大な時間をかけて、すべての教科書について、調査・研究を行いました。研究は、事前に行われました県の教科用図書専門委員会や志太地区全学校からの調査研究報告書などを参考にして進められました。その研究結果は、「志太地区教科用図書採択連絡協議会」に報告され、採択協議会での協議を経て、採択案として、ここに提示されております。お手元にお配りしてある採択案でございます。説明に際しましては、まず、すべての種目（教科書）に共通する事柄について述べ、次に、各種目（それぞれの教科書）について簡単に御説明いたします。そして、最後に、採択案として示された発行者の教科書について、説明させていただきたいと思っております。まず、すべての種目（本）、すべての発行者に共通することについて、説明いたします。どの教科書も学習指導要領改訂の基本方針である「知識及び技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の質をさらに高め、確かな学力を育成する」ことに従い、適切に編集されています。</p> <p>それでは、「国語」から説明をいたします。「国語」では、「東京書籍」「学校図書」「教育出版」「光村図書」の4者について、調査・研究いたしました。どの発行者も、今回の国語科の改訂のポイントである「言語力育成の中核を担う教科として、生活や学習に必要な能力を身に付けるため、記録、報告、解説、推薦などの言語活動を充実すること」「話題や取材、交流などの指導事項を新たに定め、指導のプロセスをより明確化すること」「ことわざ、故事成語、伝説、古文・漢文の音読など古典に関する指導を充実すること」をしっかりと押さえた構成となっています。その中で、志太地区の採択案としては、「光村図書」があげられております。その理由を説明します。「読むこと」の単元の扉には、単元で学ぶことが明記されています。そして、学習の道筋のページの「見通しをもとう」では、この単元の学習で何を学ぶのかが具体的にしめされているので、見通しをもった学習ができるようになっています。また、学習の展開も「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ふかめよう」の過程で本単元の課題が一覧で示され、どのように学ぶのかを教師と児童が共有できるようになっています。「ふりかえろう」においては、「知識・技能」「思考・判断・表現」</p>
----------------------	--

「学びに向かう主体的な態度」の3観点に沿って書かれているので、評価についても児童と共有することができます。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元においても同様に学習の進め方が明記され、具体的に言語活動事例も挙げられているため、児童にとって学びやすい工夫がされています。幼稚園から中学校までの接続を意識した教材配列となっています。1年生は友だちとの交流がもてるような活動から始まっています。6年生の最後には中学校へつなぐことを意識した単元が展開されています。2年から6年生まで一貫して、「はじめ」「なか」「おわり」の文章構成が、領域を横断して繰り返されていることで、読んだり書いたりする力がどの子にも身につけやすいと考えます。特に「説明的な文章」の単元では、練習教材と主教材の2段構成になっているので、練習教材でどのように学ぶかを身につけ、次に主教材では自分の力で読み進めていけるという工夫がされているので、主体的な学びができる工夫がされています。2年生以上の巻末にある付録には「言葉の宝箱」が、児童の発達段階に合わせてカテゴリーごとにわかりやすくまとめてあるとともに、考えや感想、気持ちを表す抽象的な言語について日常的に活用したい語彙が意識して配列されているので定着が期待されます。「読むこと」の学習では、文学的な文章と説明的な文章のどちらも指導事項を身につけることが意識され、発達段階に応じた内容の教材が掲載されています。説明文では「問い」と「答え」のつながり、「始め・中・終わり」の構成、事実と意見の区別等、基本的な指導事項を繰り返し学べるような内容となっています。文学的教材では場面の様子から心情や情景、人物の相互関係を考えながら読み深めるのに適した多様な教材が掲載され、学年が上がるにつれて、力が積み上げられていくのが教科書からよくわかるような工夫がされています。「書く」学習では、多様な様式が具体的なモデルとともに、言語活動として掲載され、自分の考えや思いを伝えられるようになる学習が展開されています。「話す聞く」学習では、児童の生活や学習につなげた内容の話題をもとに段階的に伝え合い、話し合う力が身につくよう構成されています。単元の最後にまとめられている「たいせつ」のコーナーには、この単元でどんな力がついたのかが、大変端的にわかりやすく提示されています。これは、他の教科書と比べて実にわかりやすく、活用しやすい内容で、汎用的に学んでいくことが期待できます。「いかそう」の欄には、学んだ力をどんな場で発揮するとよいのか他教科や日常に生かす指南まであるので、児童は学んだことを活用して充実した言語活動を展開できるであろうと考えます。さらに「情報の取り扱い」についても、明確にスキルとして取り上げ、様々な場で活用できるような例示が多くされています。思考するときの比較、分類、関係づけるなどの整理・分析の仕方から、順序性や事実など情報同士の関係をとらえる力や情報収集の時に必要な引用や要約などを発達段階に即して、明確に取り上げているのも、光村図書の秀逸な点です。児童が学習に意欲を持って取り組めるような具体的なモデルの提示、興味関心を高めるだろう挿絵や写真

などの資料、読みたくなる本や作家の紹介などの配慮も随所にされています。こうしたよさが、他者に比べて総合的に優れており、志太地区の児童の実態に最も合っていると判断されました。

続いて、「書写」の説明をいたします。「書写」は、「東京書籍」「学校図書」「教育出版」「光村図書」「日本文教出版」の5者です。各発行者とも、硬筆と毛筆との関連を図りながら、望ましい文字意識を育てることを意図した編集がなされています。また、相手や目的を意識して書くなど、身に付けた力が実生活で生かされるような工夫がなされています。志太地区の採択案は「光村図書」です。その理由を説明します。各ページの指導事項が絞られたすっきりとした設定がされていて、目当てが明確に示されていることで、児童にとって何を学ぶのかがわかりやすいです。「たいせつ」の欄でつきたい力が明確にされていることと、巻末には1年間の「たいせつ」がすべて挙げられているので、文字を書くためのポイントを繰り返しふりかえり、身につけていくことができます。学習の流れも「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の3段階で学習を進めることが統一されているため、見通しをもって学習に取り組めます。毛筆入門期の3、4年生において、親しみやすい「ななめほさきちゃん（斜め穂先ちゃん）」や猫のキャラクターにより、視覚的に穂先の動きや始筆・送筆・終筆の筆づかいを意識することができます。学習活動が児童の言葉でわかりやすく示されたり、情報が整理され、割り付けも統一されたりしているので、紙面がすっきりと見やすくなっています。各学年において、学習した書写の能力を実生活等につなげられるよう「横書きの書き方」「原稿用紙の書き方」等のページが組まれています。特に6年生の教科書には、6年間で学んだことが「書写ブック」としてまとめられ、実生活と結びつけて6年間の振り返りができるようになっています。年間を通した硬筆・毛筆の教材量が適切であり、児童はじっくりと課題に取り組むことが可能となります。毛筆入門期である3年生の課題の数や配列は、児童が意欲をもって取り組めるように考えられています。1年生の教科書では、姿勢や鉛筆の持ち方、うでの動かし方、「書写体操」等が丁寧に取り上げられています。更に、両手の位置を上から見た写真をわかりやすく示したり、指でなぞる教材を多く取り上げたり、基礎基本を定着させることができます。こうしたよさが、他者に比べて総合的に優れており、志太地区の児童の実態に最も合っていると判断されました。

続いて、「社会」の説明をいたします。「社会」は、「東京書籍」「教育出版」「日本文教出版」の3者です。どの発行者も、今回の社会科の改訂のポイントである「47 都道府県の名称と位置、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置など学習 や生活の基盤となる知識についての学習を充実すること」「我が国の代表的な文化遺産や縄文時代の生活など、我が国の伝統や文化についての学習を充実すること」「環境や防災、情報化、法や経済の基礎となる内容など、よりよい社会の形成への参画にかかわる学習を充実すること」をしっかりと押

さえた構成となっています。志太地区の採択案は「教育出版」です。その理由を説明します。学習指導要領を的確に押さえた内容になっており、特に、社会的な見方・考え方を育てることがあらゆる点で意識されています。前学年からのつながり、モデル図が示され、児童たちが見通しを持って学習することができます。また、社会的な見方・考え方の視点で学習の振り返りができるようになっています。そのため、指導者にとっても学習指導要領のポイントを押さえた指導ができる教科書になっています。児童たちが主体的に学べるように、学習問題ができるまでの流れが丁寧に示されています。特に「つなげる」が、一時間の最後だけではなく、単元の最後にも位置付けられているため、学んだことを自分事として生かそうとする意欲を高めることができます。単元名には、5年生の3単元に「未来を支える食糧生産」など「未来」という言葉が用いられ、内容面でも社会参画への意識を高め、変化の激しい社会の中でも生き抜く力を育むという意図が感じられます。また、児童が自然と学びに入っていける配列の工夫がされています。例えば、6年生の教科書では「政治の仕組み」を学んだ後に選挙制度の移り変わりを窓口に「歴史」を学び、その中で政治の在り方や制度、他国との関係を学び、「国際社会」の学習をするという、児童の思いに沿った学びのストーリーを意識した編集になっています。資料は精選され、中心資料は大きく示されており、比較したり関連付けたりすることで、児童が考えやすと感じました。静岡県の実例が多く取り上げられています。4年では、「ごみはどこへ」で浜松市が、「地震にそなえるまちづくり」では静岡市が取り上げられるなど計41ページ、5年では、駿河湾のさくらえび漁が取り上げられ、6年生では、登呂のムラが取り上げられていて、志太地区の児童にとっても身近であり、学ぶ意欲が高まる教材が多数掲載されていました。こうしたよさが、他者に比べて総合的に優れており、志太地区の児童の実態に最も合っていると判断されました。

続いて、「地図」の説明をいたします。「地図」は、「東京書籍」「帝国書院」の2者です。2者ともに、写真資料が豊富であり、情報量に富んでいます。また、色彩や位置関係に読みとりやすくする工夫が見られます。志太地区の採択案は「帝国書院」です。その理由を説明します。教科書で学習した内容が地図帳でも確かめられるようになっており、学習した内容と関連付けて、学びを深めたり、広めたりすることができます。例えば、さくいんが工夫され、文字を色分けしており、学習したことが探しやすくなっています。日本の統計は、生産量を帯グラフで示し、概要や特徴をつかみやすい資料となっています。また、初めて地図を手にする3年生の使用を考慮して児童がつまづかないように、「地図とは何か」「地図のやくそく」等12ページにわたって丁寧にわかりやすく説明され、地図の基本を的確に身につけられるようになっています。また、基本をわかりやすく押さえられているため、指導者も指導がしやすいと考えられます。100万分の1の地図とは別に、イラストを中心に日本全体をカバーす

	<p>る 160 万分の 1 の地図が設置されており、地図学習の導入として親しみやすく、わかりやすい内容になっています。児童が主体的に深い学びができるための手だても充実しています。特に「地図マスターへの道」コーナーは大変すぐれていると感じました。児童が主体的に地図を活用できるように、自学ができる問いが設置されています。地図活用の技能が身につくだけでなく、位置や空間的な広がりなどの「社会的な見方・考え方」の育成にもつながります。また、プログラミング的思考を養う問いも設定されている。さらにタブレットパソコンなどで読み込める二次元コードがあり、紙面にはない、ドローン動画等のさまざまなコンテンツがあり、児童の思考をさらに深められるものになっています。インクルーシブ教育への配慮も感じました。静岡県のパページでは、茶畑の広がり、山の連なりなど特色がわかりやすくなっています。こうしたよさが、他者に比べて総合的に優れており、志太地区の児童の実態に最も合っていると判断されました。以上、「国語」、「書写」、「社会」、「地図」について説明させていただきました。御協議をお願いいたします。</p>
佐藤教育長	<p>「国語」、「書写」、「社会」、「地図」の 4 種目についての説明が終わりましたので、質疑に入ります。</p>
	<p>種目ごとの質疑に入ります前に、全体的な事項や共通する事項について、御意見・御質問等ございましたら、御発言ください。</p>
奥川委員	<p>どの教科においても、子どもたちが主体的に学ぶための教科書を選定して下さったという感想を持ちました。与えられた学習だけでなく、自分から何を学んで行くのか、そういう姿勢を学校で作って行きたいという現場の声が聞こえてくるような気がしました。大変良いことだと思いました。</p>
佐藤教育長	<p>ありがとうございました。子どもたちの主体性が高まるような教科書を選んでいるとのお話がありました。</p>
北川委員	<p>国語を見ていただくと、一冊と上下に分かれているものがあるが、どういったメリットがあるのか。</p>
近藤学校教育課長	<p>高学年になれば、年度の後半になると前のことを振り返りながらやることになるので、上下に分かれていると扱いづらいということになります。また、大きいサイズだと重たいので、そういったところに配慮しながら上下に分かれているということもあるかと思えます。文科省から「置き勉」の通知が出されて、教科書を置いていくことも想定しながらということになっています。</p>
佐藤教育長	<p>種目ごとの質疑に入ります。最初に、国語については、いかがでしょうか。</p>

奥川委員	題材の意味がわかりますか。
近藤学校教育課長	申し訳ありません。わかりません。
奥川委員	言葉の意味を高めるのが国語だと思います。教科書が良い、悪いではなくて国語の名前がどういう意味かを知りたいと思いました。
佐藤教育長	わかりましたら連絡させていただきます。
北川委員	物事を表面的に捉えるだけでなく、本質を理解するということが国語は大事だと思う。採択された図書は、説明がわかりやすく、継続性を大事にしているなどの視点から優れていると思う。
大石委員	大きな特徴として、QRコードが出てきているが、ICT教育の流れだと思う。国語だけがQRコードが入って無い物を採択されていますが、選考するにあたって、QRコードがどういう位置づけになっているのか。また、QRコードを学校でどう活用して行くのか。
近藤学校教育課長	教科書に付いているQRコードは、子どもたちが自分で使って行く時に読み取れることになるので、授業中に使うということは現段階では厳しい状況にあります。併せて、教師用の指導書にデジタル教科書があり、電子黒板を使用して映し出すことが出来るようになります。ただ、志太地区全体が、そのことについては揃っている状態ではないので、今後、デジタル化のことについては、協議内容に含まれてくることになって行くと思う。今回の教科書採択の中には、デジタル化、QRコードは採択の理由としては、大きく取り上げられておりません。次回の採択の中では、重要な案件になってくるのかなと考えております。
佐藤教育長	よろしいでしょうか。次に「書写」については、いかがでしょうか。ないようでしたら、次に、社会については、いかがでしょうか。
山竹委員	全国版の中で、静岡県がどのくらいという話があったが、採択においてどの程度重きを置いているのか。近辺については、補充の物を使ってということもあるかと思うが、その辺の考え方はどうか。
近藤学校教育課長	採択された図書には、静岡県のことが大変多く取り上げられています。これも大きな採択の理由になっています。特に、3・4年生については、地域のこ

奥川委員	<p>とを学ぶということになっています。教科書だけで全てを網羅することは出来ないで「わたしたちのまちやいづ」という副読本を並行して進めています。5・6年生には、副読本はありません。近隣の市町が載っていることは、子どもたちにとっては身近で学ぶことが出来ると思います。主体的に学んで行く意味では身近な地域が載っていることは非常に大きなことだと思っています。</p> <p>3・4年生の最後に、教科書に出てくる主な都道府県があるが、身近な地域が載っている親しみをわかせるためにあるのでしょうか。</p>
近藤学校教育課長	<p>想像ですが、恐らくそういう意図があるんだと思います。身近なことを学びながら、いろんな県のことについても学んでいくということで、どのことについて扱われているということを示しているのではないかと思います。</p>
大石委員	<p>前は水産業のまちとして、焼津市があげられていた記憶があります。副読本で焼津のことは勉強するということがありますが、教科書に「さかなのまち焼津」が載っていることが誇りで地元を好きになることがあった。焼津の人間としては、焼津について記述されている教科書が採択されれば良いなという希望があるという意見です。</p>
北川委員	<p>採択された図書は、地域のことを知るという視点から見ると静岡のことを取り上げていることはメリットだと思う。また、資料もわかりやすく、読みやすく取り上げていると感じた。</p>
佐藤教育長	<p>それでは、ないようでしたら、次に、地図については、いかがでしょうか。</p>
奥川委員	<p>帝国書院の地図マスターへの道は、小学生にとって学ぶ意欲を沸き立たせると思いました。今までの物は正確さもあるし、資料もいっぱいあるが、ちょっと難しい思いがあった。今回は、地図記号や地図マスターにしても興味を沸かせる地図帳だという感想を持ちました。</p>
佐藤教育長	<p>よろしいでしょうか。他にございませんか。</p> <p>他にないようでしたら、次に、「算数」、「理科」、「生活」、「音楽」の4種目について、事務局から説明をお願いします。</p>
近藤学校教育課長	<p>それでは、「算数」の説明をいたします。「算数」については、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「啓林館」「日本文教出版」の6者です。どの発行者も、今回の算数科の改訂のポイントである「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着のため、発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）によ</p>

る指導を充実すること」「国際的な通用性、内容の系統性の確保や小・中学校の学習の円滑な接続等の観点から 必要な指導内容を充実すること」「知識・技能を活用する力を育成し、学ぶことの意義や有用性を実感できるよう、数量や図形についての知識・技能を実際の場面で活用する活動などの「算数的活動」を指導内容とすること」をしっかりと押さえた構成となっています。その中で、志太地区の採択案は「学校図書」です。主な理由は、大きく4点です。1つめは、「新学習指導要領が目指す算数科の目標の達成に向けて」です。「3つの学びの力」「見方・考え方」を子どもにも分かりやすく示し、思考力の育成や系統性を重視しています。単元名と単元のめあてが分かりやすく表示し、児童の数学的活動や単元で付けたい力が明確に示されておりました。2つめは、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進において」です。〈資料提示2年11ページ〉この資料のように友達の多様な考え方に触れたり、ペアやグループなどで話し合っていたりする場面を、イラストや吹き出しなどで取り入れ、対話的な学びをイメージしやすいように教科書が工夫されていたことです。3つめは、「知識・技能の習得及び思考力・判断力・表現力等の育成の点から」です。〈資料提示6年p62〉

この資料のように、児童が苦手意識を持っている割合や単分量あたりの大きさを求めるときの立式判断は特に難しいところです。本社は、論理的に考えやすい4マス関係表などを使い、思考力・判断力・表現力等を育てる配慮がされていました。4つめは、中学校・他学年との系統性の重視がされていることです。〈資料提示6年185ページ、199ページ〉中学校から小学校に移行した統計学習の内容が、整理と活用に分かれ、最も丁寧で充実していました。その他の面からも、横幅が長い教科書にし、作業や書き込みがしやすくなっている。使用する数値が児童の発達の段階に即した適度な難易度がある。巻末付録も、精度が高く、思考を助ける教具として最適であった。表紙のデザインに当該学年の学習内容が網羅されており、児童が学習をイメージしやすく、創造性の高いものとなっている。等のよさが見られました。こうしたよさが、他者に比べて総合的に優れており、志太地区の児童の実態に最も合っていると判断されました。

続いて、「理科」の説明をいたします。「理科」は、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「信州教育出版」「啓林館」の6者です。どの発行者も、今回の理科の改訂のポイントである「基礎的・基本的な知識・技能の定着のため、科学の基本的な見方や概念を柱に、小・中学校を通じた内容の一貫性を重視すること」「国際的な通用性、内容の系統性の確保等の観点から、必要な指導内容を充実すること」「科学的な思考力・表現力等の育成の観点から、観察・実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動等を充実すること」「科学を学ぶことの意義

や有用性の実感及び科学への関心を高める観点から、日常生活や社会との関連を重視し改善すること」をしっかりと押さえた構成となっています。その中で、志太地区の採択案は「大日本図書」です。主な理由は、大きく6点です。1つめは、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されていることです。単元の最初に話し合う内容を示すことで、単元の見通しをもち、主体的・対話的に学ぶことができるよう工夫されています。学習の流れを「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」の3つに色分けし、それらを繰り返すことで、見通しをもって主体的に学ぶことができるよう工夫されています。予想や計画、考察の場面で、子どもが話し合いたくなるよう、子どもが机を並べて話したり黒板を使って考えたりするイラストが掲載され、対話的な学びを意識できるよう工夫されています。2つめは、問題解決的な能力育成ができるよう工夫されていることです。各単元の学習で、学習問題から予想、計画、観察・実験などの活動、結果、考察、結論という過程で構成されており、その過程を各単元で繰り返すことにより、問題解決の能力が自然に身に付くよう工夫されています。3つめは、理科の資質・能力が身に付くよう工夫されていることです。単元末の「確かめよう」で学びを確かめる場が設定されていて、基礎・基本の定着が図れるよう工夫されています。子どもが試行錯誤しながら問題解決していけるような活動が導入に設定されていて、自然に学習問題をもち、主体的に学ぶことで、思考力・判断力・表現力が身に付くよう工夫されています。4つめは、理科の見方・考え方を意識できるよう工夫されていることです。理科の考え方を踏まえ、発達段階に応じて3年は「比較」、4年は「関係付け」、5年は「条件制御」、6年は「多面的に考える」を意識した観察・実験のタイトルになっていて、見方・考え方を働かせながら問題解決ができるよう工夫されています。巻頭に掲載されている「理科の学び」では、理科学習の流れを示すとともに、発達段階に応じた各学年の学習で特に大切にしたい段階を示して、つけたい力が身に付くよう工夫されています。5つめは、理科の面白さや理科を学ぶことの有用性を実感したり、学びを生活に生かしたりすることができる工夫がされていることです。単元の始めに既習事項の振り返りを位置づけ、単元末には学習内容を深める資料「りかのたまてばこ」や中学校まで見据えた発展的な資料「サイエンスワールド」を扱うことで、理科の面白さを感じたり、先の学年の学習内容にも興味をもったりするよう工夫しています。E S D、環境、防災、理科と仕事、伝統、科学技術、英語等とのつながりがある内容を多く取り上げていて、子どもの興味・関心に応じて学びを広げたり、深めたりできるよう工夫しています。6つめは、豊富な静岡の資料を使っていることです。3年生から6年生まで静岡県の写真が数多く紹介されています。特に、5年生の「流れる水のはたらき」と「土地の変化」の単元では大井川が志太平野を形成している様子がまとめられていて、子ども達も親しみをもって理解できます。その他にも多くの静岡の資料が掲載されています。それ以外にも、単元配列では、

学校全体の理科室の使用時期が重ならないような単元配列がされています。また、3年の「ゴムと風」では、梅雨時期に室内で活動できるような教材が配列されています。5年の「ふりこの学習」では、算数の「平均」の学習時と併せて3学期に組まれています。巻末にある教材は、3年はシール教材、4年は星座シート、5年は災害に備えようブック、6年はクイズすごろくと発達段階に合わせて楽しく学べるよう工夫されています。こうしたよさが、他者に比べて総合的に優れており、志太地区の児童の実態に最も合っていると判断されました。

続いて、「生活」の説明をいたします。「生活」は、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「信州教育出版」「光村図書」「啓林館」「日本文教出版」の8者です。どの発行者も、今回の生活科の改訂のポイントである「気付きをもとに考えたりすることなど、気付きを質的に高める観点から、活動や体験を一層充実するための学習活動を重視すること」「児童を取り巻く環境の変化を考慮し、安全教育に関する内容を充実、自然の素晴らしさ、生命の尊さを実感する指導を充実すること」「地域の出来事などを身近な人々と伝え合う活動を行い、人とかかわる楽しさが分かり、進んで交流できるようにすること」をしっかりと押さえた構成となっています。その中で、志太地区の採択案は「日本文教出版」です。主な理由は、大きく6点です。1点目は「生活科における確かな学びを育む工夫がされている」ということです。各単元の活動ページ左下に3つの資質、能力に基づいた目当てが明示され、活動のイメージがもちやすくなっています。また、活動の視点をキーワードで示し、児童が様々な工夫に気づき、学びを深めることができるようになっています。2点目は「わかりやすい、学びやすい、活用しやすい」ということです。新学習指導要領では、「比べる、試す、見通す、工夫する」などの「考えるための技法」の活用が求められています。このページではウェビングの手法が用いられていますが、本教科書に掲載されている文章や写真、イラスト、図、吹き出しなどの多くが「考えるための技法」と関連付けられており、学びが深まるよう工夫されています。また、志太地区は海や山、山間部、都市部など様々な地域で構成されているため、それぞれの地域の特徴にあった教材が必要となります。本教科書は、それぞれの地域にあった学習活動に対応できるよう、多様な内容を取り上げています。さらに、夏休みに自分で取り組める内容が数多く掲載されているので、児童の興味関心が高まり、主体的に取り組むことができるよう工夫されています。こうしたよさが、他者に比べて総合的に優れており、志太地区の児童の実態に最も合っていると判断されました。

続いて、「音楽」の説明をいたします。「音楽」は、「教育出版」「教育芸術社」の2者です。2者とも、今回の音楽科の改訂のポイントである「表現活動及び鑑賞活動において共通に必要な能力を示した〔共通事項〕が新設されたこと」「歌唱共通教材について、必ず指導する曲数が増加されたこと」「鑑賞教材

	<p>について、和楽器を含めた我が国の音楽の指導を充実すること」をしっかりと押さえた構成となっています。その中で、志太地区の採択案は「教育芸術社」です。主な理由は、大きく3点です。1つめは、音楽への興味・関心を高め、音楽科の目標を達成するための内容であることです。子どもたちが主体的に学習に取り組み、1年間の学習の見通しがもてるように全ての学年の巻頭に「音楽の木（学びの地図）」が載せられていて何を学ぶのかがわかりやすくなっています。「思い出そう」のコーナーや巻末の「ふりかえりのページ」があり、学習したことを振り返って確認したり関連付けたりすることができます。1年から4年の様々な教材で、音の高低を視覚的に風船で表し、音程を意識して演奏したり歌ったりすることができます。3年のリコーダーの導入では、タンギングや息づかいについて、子どもがイメージしやすい具体的な練習法が示されています。2つめは、多様な音楽活動を幅広く体験することができるような、組織・配列・分量になっていることです。学びがつながり、音楽活動が広がる題材構成になっています。6年「ボイスアンサンブル」では、パートにあう楽器を選んで演奏した「ラバースコンチェルト」の学習を生かして、リズム伴奏を楽器の代わりに声で演奏する学習に広げています。題材の目標であるいろいろな音色を感じ取ることに迫っています。鑑賞では、3年金管楽器、4年木管楽器、5年弦楽器、オーケストラとだんだん楽器の幅が広がっています。3つめは、児童・学校・地域の特性や実態を考慮し、児童の発達の段階に即していることです。1年生が、幼稚園や保育園の経験を生かしながら安心して授業に取り組むことができるような音楽活動を設定し、スタートカリキュラムに配慮されています。1年では、初めて扱う打楽器（トライアングル・タンブリン・すず）の音の出し方を図や写真でわかりやすく説明しています。音楽づくりの場面がスモールステップになっていて、どのように取り組んでいったらよいかわかりやすいです。こうしたよさが、他者に比べて総合的に優れており、志太地区の児童の実態に最も合っていると判断されました。以上、「算数」、「理科」、「生活」、「音楽」について説明させていただきました。御協議をお願いいたします。</p>
佐藤教育長	<p>「算数」、「理科」、「生活」、「音楽」についての説明が終わりましたので、質疑に入ります。</p> <p>最初に、算数については、いかがでしょうか。</p>
山竹委員	<p>書き込みをする本は広い方がいいと思います。理科、社会についても、他の出版社の物は狭いものが多いんですか。</p>
近藤学校教育課長	<p>算数については、書き込んだりするので他社に比べて広い物を採択したいということでもあります。他の教科については、いろんな条件があるので必ずしも</p>

	広い物を採択したいということにはなっていない。
山竹委員	全体的に広がっているという方向ではあるということですか。
近藤学校教育課長	そういうことです。
奥川委員	特に小学生は三角定規やコンパスなどあり、面倒くさい方向へ行きがちなんですが、大きなものを選んだことは大変良いことだと説明を聞きました。ドリル問題も大事なので、広々としていていいと思う。
北川委員	書き込みが出来ることは大事で理解に繋がると思う。おもしろいとやる気も起きるので、キャラクターで表し入りやすい工夫がされているのがいいと思う。
佐藤教育長	それでは、理科については、いかがでしょうか。
奥川委員	実験がおもしろいなという感じがします。どこの学年を取ってもやってみたいなと思うような構成がされている気がします。興味、関心がわく写真もあり、探究学習のおもしろさを一番習得出来るのが理科だと思うと大事だなという感じがします。
北川委員	おもしろいことが重要なポイントだと思う。3年生から6年生では、身近な物を取り上げたり、子どもたちがよく知っている物を取り上げるのは大事だと思う。学習したことを生活で活かすという視点で見ると、そういうことが記載されているという印象を受けました。
佐藤教育長	静岡県、大井川のことが載っていて、丁寧でわかりやすいので、授業の中でも話しやすいのかなと思う。
大石委員	写真がきれいで目を引く。イラストも多く極力文字を少なくしているなど、理科が苦手な子にもわかりやすく、入りやすい工夫がされているなどと思った。同時に、興味を持った人がより学べるような工夫もされていて、よく考えられている。それぞれのレベルに応じた教科書になっているかなという感想です。
佐藤教育長	ありがとうございました。続いて、生活については、いかがでしょうか。
奥川委員	多くの会社から出されていて、研究員の方がよく調査をしてくれている。た

佐藤教育長	<p>くさんある中から、志太の子たちのために選んでくれた感じがします。どれも、素晴らしい評価を書いて下さっている。</p> <p>補足説明がありましたらお願いします。</p>
近藤学校教育課長	<p>自分自身の生活や成長を振り返るところで、乳幼児時期の写真が掲載されている教科書については、家庭事情が様々で自分自身の写真が用意できるかということがあり、ここについては乳幼児時期でなく、その後の時からの写真でいいのではないかということで、「日文」については配慮がされているという説明がありました。</p>
佐藤教育長	<p>研究委員からの説明の中にありました。</p>
北川委員	<p>たくさんありますが、採択されたものがありました。</p>
佐藤教育長	<p>次に音楽については、いかがでしょうか。</p>
奥川委員	<p>子どもの成長に合わせた教材配列をするだろうが、6年間取っておきたいという思いにさせる編成がされている。聞いてみたい、やってみたいページがたくさんある。という感想です。</p>
佐藤教育長	<p>それでは、次へ移ります。</p> <p>次に、「図画工作」、「家庭」、「保健」、「英語」、「特別の教科道徳」の5種目について、事務局から説明をお願いします。</p>
近藤学校教育課長	<p>それでは、「図画工作」の説明をいたします。「図画工作」は、「開隆堂出版」「日本文芸出版」の2者です。2者とも、今回の図画工作科の改訂のポイントである「指導内容が育成すべき資質や能力ごとに整理されたこと」「表現活動及び鑑賞活動において共通に必要な能力を示した〔共通事項〕が新設されたこと」をしっかりと押さえた構成となっています。その中で、志太地区の採択案は「開隆堂出版」です。主な理由は、大きく3点です。1つめは、学習指導要領に示された資質能力に基づき、「絵や立体に表す」「造形遊び」「鑑賞」の領域がバランスよく配列され、その題材で身に付けさせたい力を子どもにも、指導者にもわかりやすく示していることです。各学年の巻頭に、1年間の題材が紹介され、付けたい力が示されていること、題材ごとに、どんな力を付けたいのかがマークと言葉で示されていることから、児童が意欲を高め、見通しをもって表現できます。また、発想の仕方や技能、材料などが系統立てて配列され、前に学習したことを生かすことができるようになっている他、「あわ</p>

せて学ぼう」により、他教科との関連が位置づけられ、児童にとって効果的な学習が展開されるよう配慮されています。

2つめは、児童が、生活や社会の中の色や形などと豊かに関わる資質能力を育む工夫がされていることです。地域や伝統文化、芸術作品をたっぷり紹介し、児童の興味関心を広げています。3つめは、子どもの表現欲求をふくらめ、活動への見通しをもち、主体的に表現することができるよう様々な工夫がされていることです。例えば、題材で扱う材料や用具、活動の様子や製作の仕方、作品などが効果的に配置され、児童が自分なりの思いや見通しを持って取り組むことができます。巻末には、材料や道具の使い方、技法についてわかりやすく紹介されている他、ページごとにQRコードがあり、タブレットなどで読み込むと、道具の使い方や技法が動画で紹介されます。こうした工夫により、つまずいた子も、図工が苦手な子も、自分の力でやり抜き、達成感を味わうことができるとともに、指導者が児童を支援することにもつながります。また、協働的な活動を取り入れ、友達と関わることで、自分の見方や表現の幅を広げることができる構成になっていることも、児童の主体的な態度を大切にしようと考えられた教科書であると言えます。こうしたよさが、他者に比べて総合的に優れており、志太地区の児童の実態に最も合っていると判断されました。

続いて、「家庭」の説明をいたします。「家庭」は、「東京書籍」「開隆堂出版」の2者です。2者とも、今回の家庭科の改訂のポイントである「少子高齢化等に対応する観点から、家族と家庭に関する教育を一層充実すること」「食育の推進の観点から、食事の役割や栄養・調理に関する内容を一層充実すること」をしっかりと押さえた構成となっています。その中で、志太地区の採択案は「開隆堂出版」です。主な理由は、大きく3点です。1つめは、子どもたちが課題意識をもって主体的対話的に学んでいく工夫がされていることです。例えば、『ソーイング はじめの 一歩』の題材では、まず、「なぜ縫うのだろう」の問いかけや「どのようなことを学ぶのか」を示す写真で、目的や見通しを持つことができます。また、3つの学習の流れに合わせて目当てが具体的に書かれ、「何ができるようになるか」がわかりやすくなっています。それと合わせて、評価も子どもたちができるように工夫されています。「話し合おう」「考えよう」などの課題解決のヒントでは、子どもたちが自ら調べたり、考えたりして対話的に学んでいくことができるように提示されています。2つめは、「生活の営みに係る見方・考え方」の4視点について、キャラクターを使って子どもにもわかりやすい言葉で示し、意識しながら学習できるようになっているということです。3つめは、子どもの実態に合わせて学習ができるように題材の配列や資料が工夫されていることです。題材が活動に合わせて細かく区切られていること、実践例が基礎的なものから提示されていること、QRコードなどの資料が豊富であることなどです。全体を通して、学ぶことが子どもたちにわかりやすく、児童の意欲を高めながら学習を行うことができると考えます。こうしたよ

さが、他者に比べて総合的に優れており、志太地区の児童の実態に最も合っていると判断されました。

続いて、「保健」の説明をいたします。「保健」は、「東京書籍」「大日本図書」「文教社」「光文書院」「学研教育みらい」の5者です。どの発行者も、今回の改訂のポイントである「健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点から、中学校の指導内容につながる系統性のある指導ができるように、毎日の生活と健康及び病気の予防についての指導を充実すること」をしっかりと押さえた構成となっています。その中で、志太地区の採択案は「東京書籍」です。主な理由は、大きく3点です。1つめは、内容で、「気づく 見つける」「調べる 解決する」「深める 伝える」「まとめる 生かす」の4つのステップで学習する構成が、志太地区の授業で大切にしている問題解決的な学習に適していることです。自然災害によるけがの防止の学習において、地震における危険回避の学習や情報の入手方法等、3ページにわたり記載されています。自然災害が想定される志太地区の児童に必要な学習が適切にできると考えられます。「熱中症の予防と手当」や「犯罪被害の防止」、「インターネットによる犯罪被害」等、今日的な課題や学習内容に関連した情報を掲載されています。多くのページに記述欄があり、本書をワークシートとしても活用できます。これにより、思考力や表現力を高めることができ、学んだことを振り返ることもできます。また、人の意見を聞いて、考えを書く欄が多く取り入れられていることで、主体的・対話的で深い学びが期待できます。他教科、他領域、他学年との関連について記載があり、横断的な学習につなげることができます。学習の最後に本時のキーワードを使って学習内容の要点をまとめたり、学習内容を自分の生活と比べることで、今後の生活に生かしたりすることができるようになっています。2つめは、組織・配列・分量で、1項目を4ページで学習するように配列されていて、ステップ4の下欄に、次時の学習内容の予告や、それまでに考えておく事項が表記されており、児童の意欲を高めることにつながると考えられることです。1ページ目で本時の課題を把握し、2、3ページ目に課題解決のための情報や資料があり、4ページ目でまとめや振り返りをするという形式になっている、児童の思考の流れを大切にするページ構成になっていると感じます。資料が豊富であり、心肺蘇生（胸骨圧迫とAED）については1ページを使って具体的に紹介しています。3つめは、児童生徒の発達段階に適していることです。中学年では、写真やイラストが多く、興味関心を引きやすい構成、高学年では具体的なデータから気づいたことをもとにした考えづくりや対話につながりやすい構成となっており、発達段階に応じた工夫がなされています。キャラクターのわかりやすい言葉で、問題解決につながる視点や情報が示され、多くの児童が自分の考えを持つことができます。中学年では「外で遊ぶときに注意すること」として、災害も含め、自分の身を守るために注意することを、高学年では「自然災害によるけがの防止」として、主に地震による災害時におけ

る危険回避等について学習をします。南海トラフ沖地震の発生が想定され、地震・津波から身を守る能力や態度を育てることは志太地区の児童にとって重要な課題であるため、この学習の効果が期待できると考えます。こうしたよさが、他者に比べて総合的に優れており、志太地区の児童の実態に最も合っていると判断されました。

続いて、「英語」の説明をいたします。「英語」は、「東京書籍」「開隆堂出版」「学校図書」「三省堂」「教育出版」「光村図書」「啓林館」の7者です。どの発行者も、英語のポイントである「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成と、言語・文化についての理解を深めること」「身近なコミュニケーションの場面について音声面を中心にALT等とコミュニケーション活動を行い、コミュニケーション能力の素地を育成すること」「日本と外国の言語や文化の違いを知り、国語や我が国の文化についても理解を深める指導を充実すること」をしっかりと押さえた構成となっています。その中で、志太地区の採択案は「東京書籍」です。主な理由は、大きく3点です。1つめは、ALTや外国語支援員とのT-Tの授業に適していることです。What language do you want to study? What is your favorite animal? など、毎時間 small talk が設定されています。ALTや外国語支援員を十分に活用し、どの学校でも毎時間少しずつやりとりの経験を積み重ねていくことができます。ALTや外国語支援員と共に授業を行う環境にある本地区にとって大変有効だと考えます。2つめは、学んだ表現を、繰り返し使う活動が系統的に設定されていることです。単元の最後に子どもが「思考力・表現力・判断力等」を働かせてコミュニケーションを図る活動です。それまでの学習で慣れ親しんだ表現を使って、日本語で書かれた会話やスピーチの流れをヒントに、自分の思いをまとまりのある英文で表現します。さらに、同じテーマで学んだ複数の単元の話題や表現を組み合わせてテーマにそって自分の思いを表す活動があります。ここでは、単元の活動で使ったカードをポートフォリオとして貼付しておき、活用します。学びの積み重ねを大事にしているので、主体的に取り組む態度の向上につながると考えます。3つめは、どの子どももコミュニケーション活動に参加しやすいよう視覚に訴えていることです。ここにはプロフィールカードの作り方の例が提示してあります。また、例文も色わけによって文構造について意識できるようにする配慮されています。その他、様々な国の言語や文化について、日本語や日本の文化と比較しながら、児童が自ら気づくことができるよう工夫されており、単元に関連性のある内容を取り上げているため、児童の自然な思考の流れに沿っており、興味関心を高めやすいこと。単元のはじめにゴールが明示され、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」が目標に沿った内容で構成されており分かりやすく、1時間の学習の中に、4技能がバランスよく盛り込まれており、児童の意欲の持続も期待できる内容になっていること。音声と文字の関連については、各ページに少しずつ配置されており、無理なく学

習が進められ、5年ではアルファベットをグルーピングして提示したり、6年では言語活動と関連させたりと、発達段階に応じた内容になっていること。5年では自分・地域・日本について、6年では世界についてと、広がりがある配列になっており、それらが単元としてまとまっているため、系統的に学習に取り組むことができ、5年の例文には、文字に写真や絵が付いており、絵と文字をつなげて考えられるようになっており、6年の例文は文字のものが増え、文字を頼りに考えられること。自己表現に役立つ単語や表現をまとめた別冊を使うことで、多くの言葉に触れることができ、書く際にこの別冊を使用することも想定されているため、文字に4線が付いていて書き写しやすく、児童の実態に即していること等が挙げられます。こうしたよさが、他者に比べて総合的に優れており、志太地区の児童の実態に最も合っていると判断されました。

最後に、「特別の教科 道徳」の説明をいたします。「特別の教科 道徳」は、「東京書籍」「学校図書」「教育出版」「光村図書」「日本文教出版」「光文書院」「学研教育みらい」「廣済堂（こうさいどう）あかつき」の8者です。どの発行者も、今回の道徳の改訂のポイントである「より効果的な教育を行う観点から、発達の段階に応じて指導の重点を明確化し、小学校では、挨拶、人間としてしてはならないことをしない、集団や社会のきまりを守る等を重視すること」「先人の生き方、自然、伝統と文化、スポーツなど、児童生徒が感動を感じる魅力的な教材の活用すること」をしっかりと押さえた構成となっています。その中で、志太地区の採択案は「光村図書」です。主な理由は、大きく3点です。1つめは、内容面で、一定の道徳的価値を含んだねらいを達成するために、適切な内容や発問であるということです。児童にとって身近な出来事の中から、問題提起する教材が多く取り上げられています。教材の中に正解がなく、児童が考えを話し合う中で価値を見つめる展開になるよう工夫されています。読み物教材だけでなく、漫画や一枚絵・場面絵などの多彩な形式の教材が、様々な表現方法で提示され、興味関心を高めながら短時間で問題を捉えて核心に触れ、充実した議論を生み出す工夫もありました。2つめは、児童が系統的・発展的・主体的に学習できるようになっているということです。「仲間づくり」「集団づくり」「感謝や成長の振り返り」のように、一年間を3つのまとまりに分け、児童の一年間の学校生活に即した流れになっています。これにより、他教科と関連が付けやすく、道徳科が教育活動における道徳教育の要としての役割を果たすのに適した配列です。また、いじめ、情報モラル等について、同じテーマでユニットを組み異なった角度からとらえた複数の教材を扱い、多面的・多角的に考えを深められる構成となっています。3つめは、全体的に、穏やかな色調、適切な文字の大きさで表現されていて、見やすく読みやすい工夫がされていることです。また、児童の感性に直接訴えかけるような、ダイナミックで美しい挿絵や写真が、学習に一層興味関心を深め意欲的に取り組めるよう発達段階を考慮しながら採用されています。こうしたよさが、他者に比べて

佐藤教育長	<p>総合的に優れており、志太地区の児童の実態に最も合っていると判断されました。以上、「図画工作」、「家庭」、「保健」、「英語」「特別の教科 道徳」について説明させていただきました。御協議をお願いいたします。</p> <p>「図画工作」、「家庭」、「保健」、「英語」、「特別の教科道徳」についての説明が終わりましたので、質疑に入ります。</p> <p>最初に、「図画工作」については、いかがでしょうか。</p>
奥川委員	<p>今のグループで気になったのがQRコードです。「図画工作」も「家庭」も有効的であって活用できるな、親と話しながら勉強できるなど感じ、この教科の特性に合っているなど思いました。「英語」は、今後、耳から入る学習方法が大事になってくる、志太で選んで下さった「図画工作」、「家庭」、「英語」は、子どもたちの学びを助けてくれる手立てをたくさん取っている教科書を選んでくれていると感じました。「保健」は、少ない時間で随分内容が豊富だなど、探究学習に合った方向を展開している会社を選んだかなど思い、子どもたちの学び方を学ぶ意味において、この教科書もいいなど思いました。</p> <p>「特別の教科道徳」についてですが、先人の偉業を先人に学ぶという時に、志太の副読本があったので、身近な地域の方の授業があったのですが、全国版になった時に、教科書と身近な地域の方をどのように展開していくのか疑問に思ったので教えてください。</p>
近藤学校教育課長	<p>中心は教科書であるけれども、それ以外の物を有効に関連付けながら使っていくことが基本的な考え方になって行くと思います。いろいろと研究しながら、志太地区では、こういった事を大切にしていこうということで研究されることを期待しています。</p> <p>QRコードですが、教師はタブレットを持っているので、子どもの教科書を読み取って画面に映し出す事は可能になります。子どもたちへのタブレットは何年かの計画の中で3クラスに1クラス分という形で配布されるようになります。スマートフォンで読み取りが出来ますので、是非、家庭で教科書を見ながらお家の方と話をする機会にもなって来るのではないかと思います。今から4年間というものは、そういった使い方が家庭でもされることが期待される状況じゃないかと思います。</p>
佐藤教育長	<p>QRコードについては、親が映してみせる、自分自身で見るなど新しい資料として使えるのではないかと思います。</p>
北川委員	<p>「図画工作」は、絵、イラスト、写真が多く親しみやすく楽しい授業が出来ると思う。</p>

山竹委員	4年に一度変わるということで、今まで使ってきたものと新しいもののが変わっているのがわかるといいなということと、比較の中で変えた理由がわかるといいなと思いました。
近藤学校教育課長	継続性というものが一つ大事なことなものですから、多くの物が今まで使っていた教科書を継続性ということで採択されています。今回、「生活」が変わっていますが、教科書を見ながら教師が指導していくことでスムーズな移行が可能かと思います。
山竹委員	出版社が変わるということは少ないということになりますか。
近藤学校教育課長	継続性は大事ですが、一度フラットにして、子どもたちにとってより良い物を選んで行きましょうという中で、継続性も入ってくるという観点の中で選んだ結果ということになってきます。
北川委員	「保健」は、心や身体のことでは一番身近に感じるものである。自分の問題として考えさせることに具体的に触れていると感じた。
大石委員	QRコードで、ものすごい情報量を教科書に載せることが出来て頼もしく、可能性を感じました。大人でも使えるちゃんとした情報が載っているので、先生方が子どもを指導する上で有効に使っていただきたいと思いました。
佐藤教育長	<p>今までにない資料として、動画を見せるものですから、これからの採用への大きな判断基準になって来るのではないかと思います。</p> <p>他にありますでしょうか。</p> <p>ないようですので、これで質疑を終了いたします。</p> <p>事務局より志太地区の採択案の説明をお願いします。</p>
近藤学校教育課長	それでは、議案6ページ「令和2～5年度使用小学校教科用図書（志太地区採択案）」をご覧ください。国語 光村図書、書写 光村図書、社会 教育出版、地図 帝国書院、算数 学校図書、理科 大日本図書、生活 日本文教出版、音楽 教育芸術社、図画工作 開隆堂出版、家庭 開隆堂出版、保健体育 東京書籍、英語 東京書籍、特別の教科道徳 光村図書、以上のようになっております。
佐藤教育長	それでは、議第8号について、お諮りします。「令和2～5年度使用の小学校教科用図書の採択については、志太地区教科用図書採択連絡協議会の採択案に同意する」として、御異議はございませんか。

委員全員	異議なし
佐藤教育長	<p>同意することが決議されましたので、当委員会は志太地区教科用図書採択連絡協議会長へ同意書を提出することにいたします。事務局は、同意書を提出してください。</p> <p>以上で、本日、予定していた議事は、全て終了いたしましたので、7月臨時教育委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。</p> <p style="text-align: right;">【午後3時42分閉会】</p> <p>以上、7月臨時会の会議録を記録し、相違ないことを証するために、ここに署名する。</p> <p>令和元年7月17日</p> <p style="text-align: center;">教育長 _____</p> <p style="text-align: center;">教育委員 _____</p> <p style="text-align: center;">教育委員 _____</p> <p style="text-align: center;">議事録調製人 _____</p>